

川曲阿弥陀西遺跡No.2

店舗新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013.12

前橋市教育委員会
株式会社 ベイシア
スナガ環境施設株式会社

例 言

- 1 本報告書は、店舗新築工事に伴って実施した^{カタマツアミズニシイモクニ}川曲阿弥陀西遺跡No.2の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市川曲町356-1・2,358-1・2,359-2・4,361,501-1,502,503-1,504-4・7,505-2,506,507,508-1
- 3 調査は、前橋市教育委員会（教育長 佐藤 博之）の指導のもとに委託者株式会社 ベイシア（代表取締役 赤石 好弘）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永 眞弘）が実施した。
調査担当者 権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
調査員 荻野博巳・板垣 宏・瀧澤典雄（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成25年8月5日～平成25年9月20日
整理期間 平成25年9月21日～平成25年12月27日
- 5 調査面積 5,329㎡
- 6 調査記録（図面・写真）、出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 調査・測量計画を須永眞弘、調査指導・安全管理を金子正人、遺構記録作図を荻野・板垣・瀧澤・須永薫子、遺構調査・写真撮影を権田、作業事務を須永豊が担当した。
- 8 本書は、前橋市教育委員会指導のもと、スナガ環境測設（株）が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては福田貫之（前橋市教育委員会）が、その他は権田が担当した。また、編集・校正を須永（眞）・金子、図書の編集・版下作成・トレースほかは、権田・岡田弥生、内業事務を須永（豊）が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（敬称略）
長澤俊男 武井知司 西谷徳雄 菊川 毅 芳川孝夫 大浜利幸
小林隆一 菊川 勝 飯島正孝 都丸伸一 本庄尚文 古郡孝一
清水宏通 長岡 保 田辺賢一 古森東一 高橋勝夫

凡 例

- 1 遺跡の番号は00820、略称は25A148である。
- 2 実測図中の記号S…石 P…土器。
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺跡平面図（1/250・1/500）、遺構断面（1/60）を使用した。
- 4 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 基準点X 0, Y 0グリッド地点を世界測地系 座標値X = 39,560,000m, Y = -70,330,000mグリッド4m間隔。水準点B.M.1…93.30m, B.M.2…93.10m。等高線5cmとした。
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所色票監修）による。
- 7 土層注記及び本文中には、1108年降下浅間山起因の軽石の略称をAs-B、6世紀初頭降下樺名山起因の軽石の略称をHr-FA、4世紀初頭降下浅間山起因の軽石の略称をAs-Cとして使用した。
- 8 土層注記中の締は締まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。

目 次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と歴史的環境	
1	遺跡の立地	1
2	歴史的環境	1
III	調査の方針と経過	
1	調査方針	5
2	調査経過	5
IV	層 序	6
V	検出された遺構と遺物	
1	As-B 軽石直下の水田跡	6
VI	ま と め	20

挿 図

第1図	遺跡位置図	2	第7図	川曲阿弥陀西遺跡No.2平面図 (B・C調査区)	14・15
第2図	周辺遺跡図	4	第8図	川曲阿弥陀西遺跡No.2平面図 (D・E調査区)	16
第3図	基本土層断面図	6	第9図	S1-S1'~S29-S29' 断面図	17
第4図	川曲阿弥陀西遺跡No.2 全体平面図	9	第10図	E1-E1'~E39-E39' 断面図	18
第5図	周辺遺跡条里地割り図 (109m 方格)	11	第11図	E40-E40'~E78-E78' 断面図	19
第6図	川曲阿弥陀西遺跡No.2 平面図 (A調査区)	12・13			

表

第1表	周辺遺跡概要一覧表	3	第3表	畦畔計測表	8
第2表	水田計測表	7			

写真図版

図版1	遺跡全景、A調査区北側・南側全景、A調査区北側・南側大畦畔	
図版2	A調査区足跡検出状況、B調査区全景、B調査区大畦畔、B調査区大畦畔と畦畔の交点	
図版3	B・C調査区大畦畔、C調査区全景、D調査区全景、E調査区全景、水口3・8・15	

I 調査に至る経緯

平成24年9月24日付けで株式会社ベイシアより店舗建設工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年11月6日、7日に試掘調査を実施し、浅間B軽石で覆われた水田跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、設計変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成25年8月6日付けで株式会社ベイシア、民間調査組織であるスナガ環境測設株式会社、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年8月7日から現地調査が開始された。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の立地

川曲阿弥陀寺遺跡№2の所在する川曲町は前橋市の南西部に位置し、JR 新前橋駅より南へ2.6km程の所にある。のどかな田園風景が広がり、小・中学校、高等学校や大学など教育施設も多く見られる。本遺跡の北東に位置する大利根団地周辺宅地開発が進み、JR 新前橋駅から関越自動車道高崎インターチェンジへのアクセス道路として、新前橋駅・川曲線が開通することにより更なる開発が進んでいる。遺跡の周囲には東方約1.2kmに主要地方道前橋・長湊線、南方約1.4kmには主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、関越自動車道高崎インターチェンジに接続する。東方約30mには澗川、西方約850mには染谷川が南流し川沿いの市道には住宅が連なる。

前橋台地は火山泥流堆積物とそれを被覆する水成ローム層から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続く。現在南流する利根川によって東西に分断されているが、旧利根川は記瀬源と思われる広瀬川低地帯に沿って東流し、台地縁辺をまわっていたと考えられている。したがって広瀬川低地帯から烏川によって切られる部分の前橋市街地から高崎市街地を含む広範囲で平坦な台地である。

本遺跡は前橋市西部及び南部を、北西から南東に広がる前橋台地の中央よりやや北西側にあり、利根川の西側に位置し、澗川と染谷川に挟まれた場所に位置し中小河川の影響を大きく受けていると考えられる。

2 歴史的環境

本遺跡(1)の所在する前橋台地周辺では1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道、近年では北関東自動車道の建設に伴う発掘調査で古代水田跡などが多く検出されている。



第1図 遺跡位置図

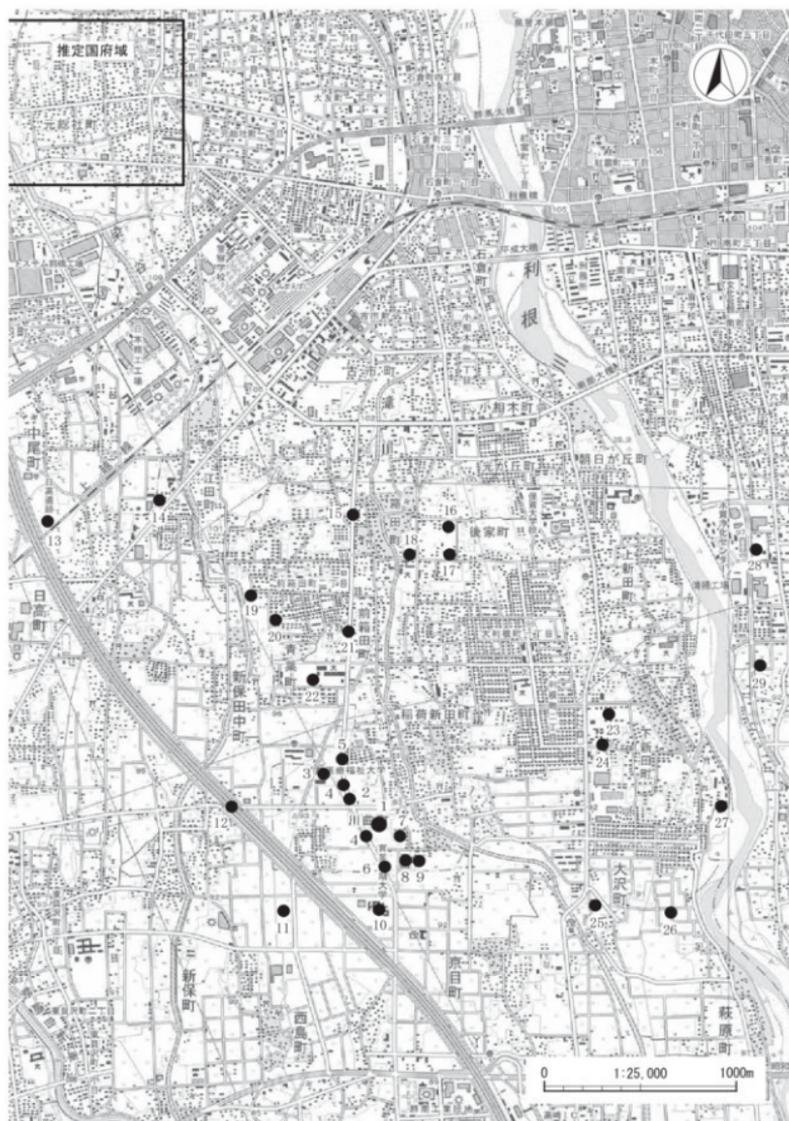
現在でも前橋市南部地域では、水田耕作が行われ滝川などの河川利用が見られる。本遺跡から染谷川を隔てた北西約2.1kmの高崎市域にある日高遺跡(13)は本県における水田研究の先駆となった遺跡で、大畦畔を検出し条里的地割の解明に大きく寄与している。

本遺跡と同様に平安時代水田跡が多く検出されている主な遺跡をあげると、利根川の右岸側では柳橋遺跡(3)、川曲柳橋Ⅱ遺跡(4)、川曲島野遺跡(5)、川曲地蔵前Ⅱ遺跡(6)、地蔵前遺跡(7)、川曲毘沙門前遺跡(8)、川曲毘沙門前Ⅱ遺跡(9)、京目作道遺跡(10)、新保遺跡(12)、勝呂遺跡(14)、箱田川西遺跡(15)、五反田遺跡(16)、五反田Ⅱ遺跡(17)、村前遺跡(18)、新保田中村前遺跡(19)、箱田境遺跡(20)、稲荷遺跡(21)、前箱田遺跡(22)、下新田中沖遺跡(23)、下新田中沖Ⅱ遺跡(24)、大沢遺跡(25)、萩原団地遺跡(26)、下新田遺跡(27)がある。左岸側では中大門遺跡(28)、棚島川端遺跡(29)などで検出されている。また、本遺跡に近接する新前橋駅・川曲線の道路改良事業に伴う発掘調査において、川曲島野遺跡(5)で東西方向に走向する大畦畔を、川曲地蔵前Ⅱ遺跡(6)では、南北方向に走向する大畦畔が検出された。さらに、川曲柳橋Ⅱ遺跡(4)の調査終了後、A2区とA3区の間で道路工事の進捗に合わせて遺構の追加調査を行ったところ、東西方向に走向する大畦畔が報告されていることから、本遺跡内に東西・南北ラインの大畦畔が存在する可能性が考えられた。

本遺跡の北西約3.6kmには、奈良・平安時代における上野国の政治・文化の中心地である推定国府城が存在し、古代上野の政治的・文化的中心地となり、上毛野国から上野国に移行した時期であり国府が造営された時期でもある。このことから前橋南西部は、高崎市の日高遺跡を含む律令社会を支える重要な水田地帯であったことが窺える。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	川曲阿弥陀西遺跡No.2	本遺跡	16	五反田遺跡	平安水田跡
2	川曲柳橋Ⅱ遺跡	平安水田跡、湿地	17	五反田Ⅱ遺跡	平安水田跡
3	柳橋遺跡	平安水田跡	18	村前遺跡	平安水田跡
4	川曲柳橋Ⅱ遺跡	平安水田跡	19	新保田中村前遺跡	As-C, FA, As-B 下水田跡
5	川曲島野遺跡	平安水田跡	20	箱田境遺跡	平安水田跡
6	川曲地蔵前Ⅱ遺跡	平安水田跡	21	稲荷遺跡	古墳水田跡, 平安水田跡
7	地蔵前遺跡	平安水田跡	22	前箱田遺跡	平安水田跡
8	川曲毘沙門前遺跡	平安水田跡	23	下新田中沖遺跡	平安水田跡
9	川曲毘沙門前Ⅱ遺跡	平安水田跡	24	下新田中沖Ⅱ遺跡	平安水田跡
10	京目作道遺跡	平安水田跡	25	大沢遺跡	平安水田跡
11	西島遺跡群Ⅱ	平安水田跡	26	萩原団地遺跡	FA, FP, As-B 下水田跡
12	新保遺跡	平安水田跡	27	下新田遺跡	平安水田跡
13	日高遺跡	弥生住居・水田跡、平安水田跡、他	28	中大門遺跡	平安水田跡
14	勝呂遺跡	平安水田跡	29	棚島川端遺跡	As-C, FA, As-B 下水田跡
15	箱田川西遺跡	平安水田跡			



第2図 周辺遺跡図

III 調査の方針と経過

1 調査方針

委託された調査範囲において店舗建設地や道路部分など用途や大きさ、形状から調査区の呼称については、店舗建設予定地をA調査区、既存道路部分をB調査区、付け替え道路部分をC調査区、店舗予定地の北西角に接する擁壁1の部分をD調査区、さらに西方に離れた位置の擁壁2の部分をE調査区とした。なお、A調査区は中央付近を東西に用水路が走り、北側と南側に分断されている。

グリッドは西から東へX1、X2、X3、…、北から南へY1、Y2、Y3、…を基本として、グリッド原点X0、Y0は、世界測地系座標値X=39,560,000、Y=-70,330,000で調査区域に4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は調査区域に2ヶ所(B.M.1H=93.300m、B.M.2H=93.100m)測設した。

図面作成は原則として、1/20、1/40、1/250、1/500等の縮尺を使用し、平面図は電子平板、断面図は遺り方による細部測量で作図を行った。また、遺構等の写真撮影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

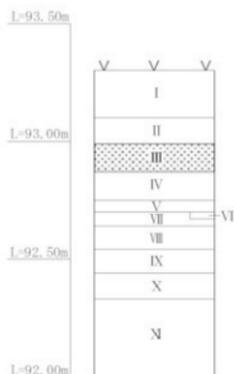
2 調査経過

調査は、前橋市教育委員会の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。

平成25年8月6日に三者協定を締結。7日、調査の開始にあたり休憩所、仮設トイレ等の設置場所や、調査区域の草刈りを開始。9日、プレハブ及び資材、重機等を搬入し、道路沿いには単管を打ちトラロープにて安全対策を行った。10日、A調査区の調査範囲を測量し、0.45㎡バックホウにて調査用排水溝の掘削を開始した。本遺跡は水田耕作地であり、周辺には水田が多く耕作されている。また、8月は水田耕作時期にあたり用水路から絶えず水を引き込んでいる。さらに、確認面は現水田の30～40cm掘り下げた深さであるため重機により排水溝を調査区周囲に掘ることにした。12日、A調査区北側の北東端から0.7バックホウにて表土掘削を開始し、同時にブルーシートにて田面を保護した。お盆休み後の16日、壁切り・ジョレン精査を開始した。20日、D調査区の表土掘削終了後、A調査区南側の表土掘削を開始した。28日、A調査区北側の畦畔について移植ゴテによる精査を始め、C調査区の掘削を開始した。29日からトランシットによるA調査区北側の記録保存を開始。30日、B調査区の掘削を開始した。9月2日、A～D調査区のジョレン精査が終了した。3日、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、E調査区の表土掘削、移植精査を行った。4日、監理監督機関である前橋市教育委員会文化財保護課による立ち会い検査を受けた。7日、A調査区北側の埋め戻しに着手。11日、A調査区に検出されている南北に走行する大畦畔や、東西に走行する大畦畔の推定位置がA調査区とB調査区との間の調査区外に近い。本来のB・C調査区の調査範囲では検出できないため、調査範囲を拡張し掘削を開始した。14日、全調査区の記録保存を終了。17日、前日の台風18号により埋め戻し途中の区域が水没し水中ポンプ6台にて排水を行った。18日、埋め戻しを再開し、資材等の撤収を開始。20日、埋め戻し・整地、発掘資材等の撤収が終了し、発掘調査すべてが終了した。

IV 層 序

本遺跡の基本土層は、A調査区内の南西角に入れた深掘りトレンチをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第3図に示したとおりである。第III層が浅間山起因のAs-B軽石層でその直下の第IV層が平安時代末期水田跡の土層である。



(A調査区南側 南西隅西壁)
第3図 基本土層断面図

- I. 褐灰色土層(10YR4/1)中締粘現耕作土
- II. 灰黄褐色土層(10YR4/2)中締弱粘、As-B軽石混土層
- III. 褐灰色(10YR4/1)～褐色(10YR4/4)弱締粘なし
As-B軽石一次堆積層
- IV. 黒褐色粘質土(10YR3/1)強締粘 As-B軽石下水田層
- V. 褐灰色粘質土層(10YR4/1)強締粘酸化層あり
- VI. 黄褐色粘質土層(10YR5/6)弱締粘
Hr-FA がブロック状に存在
- VII. 黒褐色粘質土層(10YR3/1)中締弱粘 AS-C軽石を主体とする
- VIII. 黒色砂質土層(10YR2/1)強締粘酸化層あり
- IX. 黒褐色粘質土層(10YR3/1)強締粘酸化層あり
- X. 黒色粘質土層(10YR2/1)強締粘X I層を2%含む
- XI. 灰黄褐色粘質土層(10YR6/2)強締粘黒褐色粘質土を5%含む

V 検出された遺構と遺物

1 As-B 軽石直下の水田跡

各調査区から検出した水田は合計38面検出した。また、A調査区の中央西寄りに大畦畔が北から南へ走向し、C調査区へ貫いているのが確認された。現地盤より約30～40cm掘り下げた後、ジョレン掛け精査によるプラン確認では、1～13cmの厚さでAs-B軽石を検出し、その下から黒褐色の水田耕作土層を検出した。田面は平坦で残存状況も良好で調査区全体で北から南へ低くなっており、A調査区北端からC調査区南端で30cmの比高差がある。また、完全な一區画を呈している水田は1ヶ所(13号)検出している。畦畔の走向軸は、ほぼ東西、南北であるが畚盤の目の様な形態にない。南北に走向する畦畔は、北から南へ一線のものが多いが、東西に走向する畦畔は、東から西へ一線のものは少なく、南北の畦畔に「T」字状に接続するものが多い、あみだくじの様相を呈している。畦畔の規模は、下幅で25.0～77.9cm、水田耕作面からの高さ2.0～8.8cmを測り、断面形状は緩やかな台形を呈している。大畦畔の規模は、下幅で118.2～165.4cm、水田耕作面からの高さ3.4～9.1cmを測り、断面形状は大畦畔の中央を掘り窪め、溝の機能を兼ねた形状をしている。また、C調査区では大畦畔がクランクし、北から南に走向していたものが、西に曲がり、すぐに南方向に戻る形状をしている。水口は、合計27ヶ所確認できた。南北畦畔と東西畦畔が接続する位置、またはその近くに設けられているものが多いが、畦畔中央付近のものも3ヶ所(水口5・9・20)確認された。遺物は、土師・

須恵器の小片と近世以降の陶器片など少量出土した。各田面・畦畔の計測表は第2表、第3表にまとめて報告する。

第2表 水田計測表

水田No.	面積 (㎡)	東畦 (m)	西畦 (m)	南畦 (m)	北畦 (m)	備 考
1	(63.50)	(3.13)		(21.37)		南東隅に水口3
2	(189.16)	(9.58)	10.51	19.23		南西隅に水口2
3	(156.17)		(9.58)	(18.47)		南西隅に水口1
4	(219.33)	11.69		(22.65)	(21.37)	北東隅に水口3
5	(208.41)	(8.51)		(10.19)	(22.05)	
6	(301.47)	(15.61)	(12.83)		22.45	北東・北西隅に水口1・2
7	(235.89)		(15.61)		(15.32)	
8	(4.40)				(10.19)	
9	(30.39)	(4.28)		(12.10)		南東隅に水口12
10	(91.37)	(3.25)	(6.17)	23.34		南東隅・南東に水口4・5
11	(39.78)		(3.25)	(15.47)		
12	(240.29)	10.63		(23.04)	(12.10)	北東・南東隅に水口12・13
13	351.88	16.23	16.17	22.72	23.34	北東・南東・南西に水口4・5・10・11
14	(157.37)		11.25	(15.95)	(15.47)	南西隅に水口6
15	(199.88)		12.12	(16.65)	(15.95)	北西・南西・南に水口6・7・8・9
16	(349.43)	15.33		(23.26)	(23.04)	北東・南東隅に水口14・15
17	(305.20)	(15.25)	(14.01)		22.72	北東・南東・東に水口10・11・7・8
18	(123.61)		(8.10)		(16.65)	北に水口9
19	(57.28)	(6.61)			(10.94)	北東隅に水口16
20	(177.65)	20.48	(6.61)	(9.73)	12.31	北東・北西・南東隅に水口15・16・19
21	(137.37)	(4.31)	(13.19)	(7.63)		南西隅に水口17
22	(79.71)		(4.31)			
23	(6.97)			(6.43)		
24	(21.93)	(3.06)			(6.43)	
25	(33.46)		(3.06)	(8.78)		
26	(42.64)	(3.08)			(8.78)	
27	(151.58)	18.81	(3.08)	(4.16)	(9.73)	北東・南東隅に水口18・23
28	(111.64)		26.42	(7.61)	(7.63)	北西・南西・西に水口26・27・21・22・24
29	(24.15)		(4.71)		(7.61)	北西隅に水口24
30	(60.26)	(5.81)	(2.66)		(4.16)	北東隅に水口23
31	(18.22)	(2.66)		(16.40)		南に水口20
32	(20.44)		(2.83)		(14.14)	北に水口20
33	(24.44)	(2.83)				
34	(13.24)	(1.94)			(7.95)	北東隅に水口25
35	(29.61)		(1.94)		(3.04)	北西隅に水口25
36	(1.66)			(10.99)		
37	(25.78)		(1.61)			

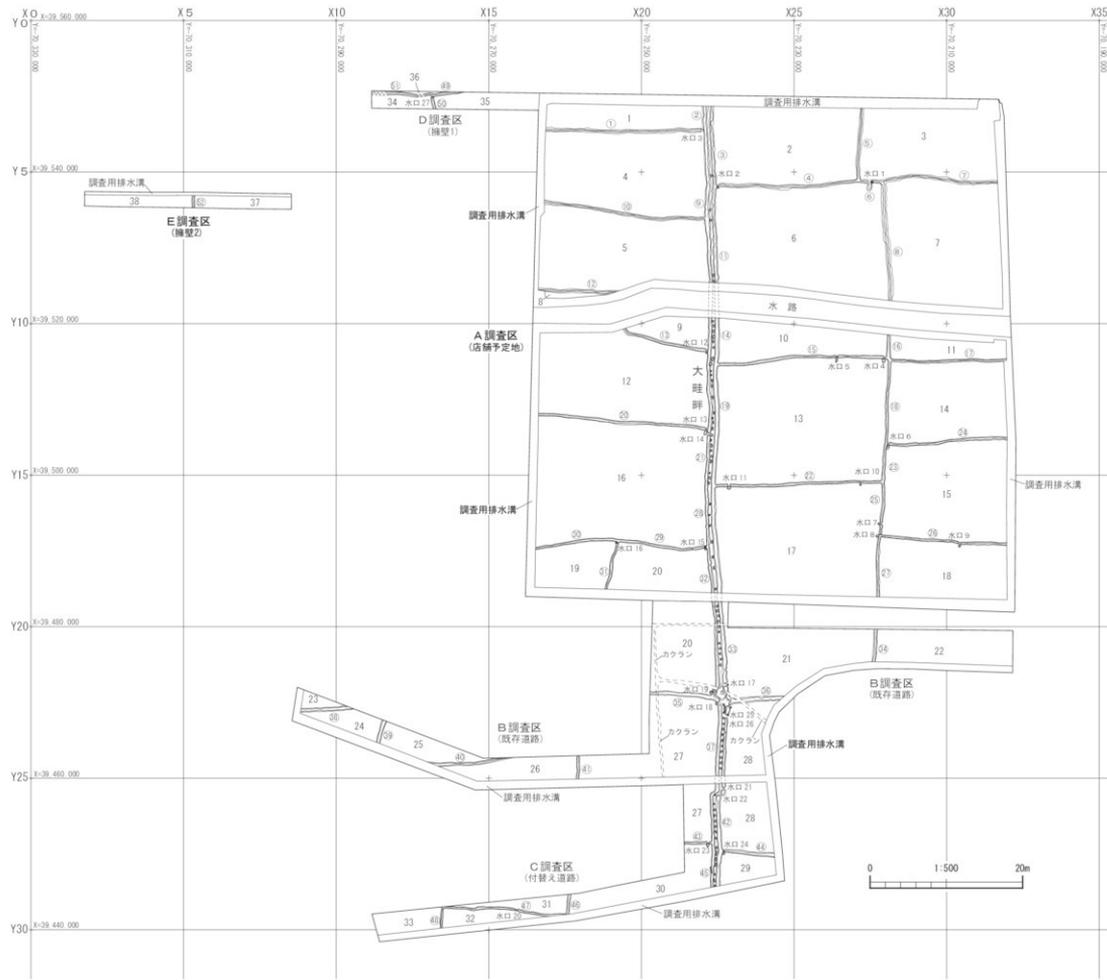
* 各項目は測量データからCADソフトを利用し、畦畔は芯々間を計測し、()は検出値とした。

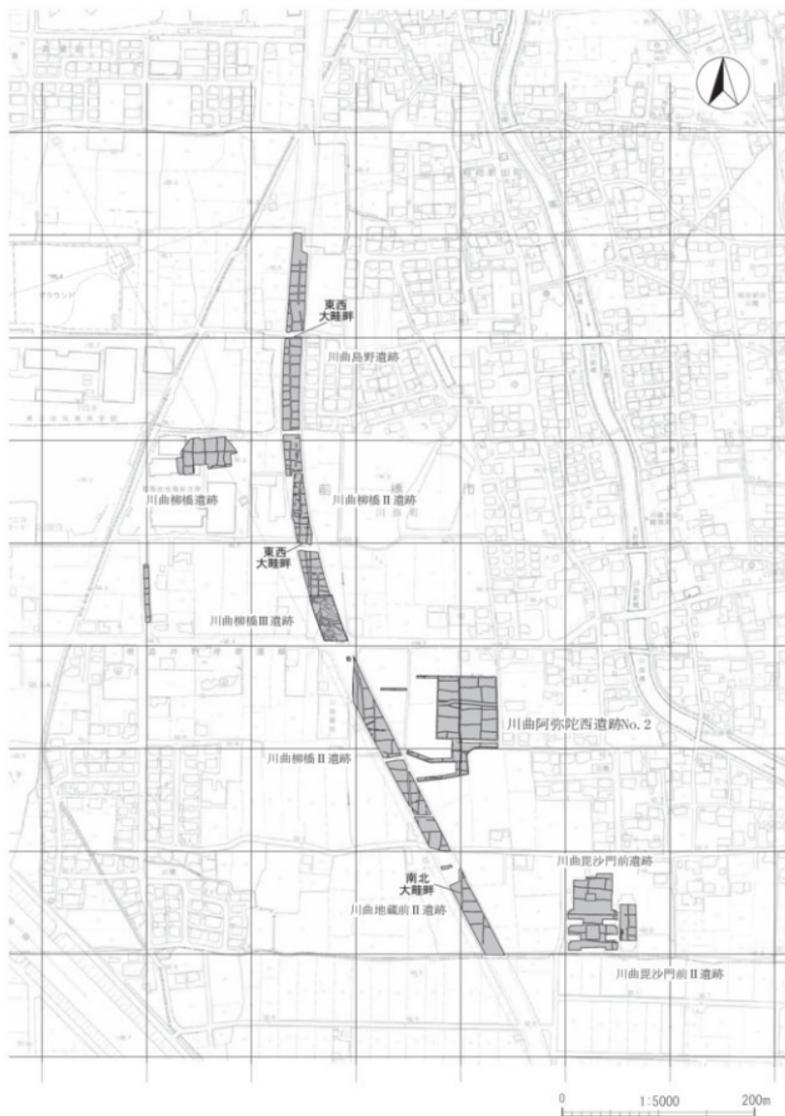
第3表 畦畔計測表

番号	グリッド	上幅 (cm)	下幅 (cm)	畦畔の高さ (cm)				方向	備考
				N	S	E	W		
1	X16~21, Y3	13.5~27.2	46.4~62.3	4.8	5.4	—	—	東西方向	水113
2	X22, Y2・3	82.1~124.4	131.8~150.4	—	—	4.9	6.4	南北方向	大畦畔
3	X22, Y2~5	108.3~120.6	131.1~147.2	—	—	6.9	7.2	南北方向	大畦畔
4	X22~27, Y5	11.2~24.5	38.4~70.1	3.1	3.6	—	—	東西方向	水口2
5	X27, Y3~5	6.9~22.6	46.2~53.9	—	—	4.0	5.4	南北方向	
6	X27, Y5	16.8~25.2	41.3~53.4	3.1	5.4	—	—	東西方向	水口1
7	X27~31, Y5	5.1~24.9	36.6~62.8	4.0	5.3	—	—	東西方向	
8	X27・28, Y5~9	16.0~33.3	54.8~77.9	—	—	8.0	5.5	南北方向	
9	X22, Y5・6	105.7~123.3	130.9~147.5	—	—	6.5	6.3	南北方向	大畦畔
10	X16~22, Y5・6	13.8~24.1	33.4~57.1	3.5	7.0	—	—	東西方向	
11	X22, Y6~8	99.0~124.6	130.0~152.6	—	—	5.7	7.1	南北方向	大畦畔
12	X16~19, Y8・9	11.0~25.6	38.1~51.8	4.7	6.7	—	—	東西方向	
13	X19~22, Y10	16.5~31.1	37.3~53.2	2.5	3.9	—	—	東西方向	水口2
14	X22, Y9~11	121.4~138.4	142.3~155.9	—	—	3.6	4.4	南北方向	大畦畔
15	X22~27, Y11	9.2~30.7	25.4~49.5	2.0	3.0	—	—	東西方向	水口4・5
16	X28, Y10・11	15.7~34.6	43.0~57.8	—	—	4.0	3.0	南北方向	
17	X28~31, Y11	12.0~19.7	32.9~50.1	2.1	3.0	—	—	東西方向	
18	X27・28, Y11~13	12.7~26.6	34.0~49.9	—	—	6.2	5.5	南北方向	
19	X22, Y11~13	110.1~135.7	127.6~159.9	—	—	3.8	3.6	南北方向	大畦畔
20	X16~22, Y12・13	14.4~29.6	32.9~52.4	4.6	7.8	—	—	東西方向	水口13
21	X22, Y13~15	109.6~134.1	130.3~147.7	—	—	6.3	6.8	南北方向	大畦畔 水口14
22	X22~27, Y15	13.7~27.8	31.4~46.9	2.8	3.9	—	—	東西方向	水口10・11
23	X27・28, Y14・15	14.4~27.6	36.6~51.6	—	—	3.9	4.3	南北方向	
24	X28~31, Y14・15	13.3~26.2	29.2~53.1	6.6	5.2	—	—	東西方向	水口6
25	X27, Y15・16	14.8~23.3	30.9~50.5	—	—	5.7	5.7	南北方向	水口7・8
26	X27~31, Y16・17	13.7~21.8	31.8~46.3	4.0	4.0	—	—	東西方向	水口9
27	X27, Y17・18	16.0~23.8	33.6~49.3	—	—	5.7	5.1	南北方向	
28	X22, Y15~17	108.8~133.6	126.8~149.0	—	—	5.8	5.2	南北方向	大畦畔
29	X19~22, Y17	12.4~25.6	33.5~44.8	4.5	5.1	—	—	東西方向	水口15
30	X16~19, Y17	15.2~25.7	33.0~44.5	4.6	6.4	—	—	東西方向	
31	X18・19, Y17・18	12.7~28.8	32.7~43.9	—	—	4.6	3.6	南北方向	水口16
32	X22, Y17・18	119.1~139.3	140.2~165.4	—	—	5.1	9.1	南北方向	大畦畔
33	X22, Y19~22	96.9~140.0	114.0~161.4	—	—	3.4	5.5	南北方向	大畦畔 水口17・19
34	X27, Y20・21	19.4~27.0	42.0~52.2	—	—	9.1	7.9	南北方向	
35	X30~22, Y22	31.2~43.7	42.1~65.4	6.1	7.8	—	—	東西方向	
36	X22~24, Y22	24.4~45.8	55.5~75.0	4.9	6.5	—	—	東西方向	
37	X22, Y22~24	100.5~143.4	118.2~164.5	—	—	6.1	6.6	南北方向	大畦畔 水口18・25・26
38	X8~10, Y22	15.6~41.7	45.7~61.5	4.6	8.8	—	—	東西方向	
39	X11, Y23	29.1~41.5	50.8~69.2	—	—	6.3	6.7	南北方向	
40	X13~15, Y24	13.4~29.9	39.5~53.9	3.8	8.5	—	—	東西方向	
41	X17, Y24	17.6~24.4	37.9~44.5	—	—	4.7	7.4	南北方向	
42	X22, Y25~27	93.3~126.1	118.4~155.3	—	—	4.4	1.2	南北方向	大畦畔 水口21・22
43	X23, Y27	15.8~20.8	34.5~40.3	3.9	4.2	—	—	東西方向	水口23
44	X22~24, Y27	19.3~41.8	41.0~65.2	2.2	5.4	—	—	東西方向	水口24
45	X22, Y27・28	99.1~118.3	119.7~139.3	—	—	7.8	4.4	南北方向	大畦畔
46	X17, Y28・29	19.0~21.6	36.3~43.8	—	—	4.0	3.2	南北方向	
47	X13~17, Y29	12.1~29.6	29.2~40.2	5.2	7.8	—	—	東西方向	水口20
48	X13, Y29	10.4~19.9	25.0~38.3	—	—	4.9	3.9	南北方向	
49	X13・14, Y2	15.1~24.7	34.1~43.0	3.9	6.9	—	—	東西方向	
50	X13, Y2	15.8~26.4	35.8~44.8	—	—	4.2	3.5	南北方向	水口27
51	X11~13, Y2	14.4~24.2	32.2~52.7	4.2	7.3	—	—	東西方向	
52	X5, Y5・6	14.5~22.0	38.7~42.5	—	—	2.9	3.5	南北方向	

* 各項目は測量データからCADソフトを使用し、高さは断面図等も利用した。

川曲阿弥陀西遺跡 No. 2 全体平面図

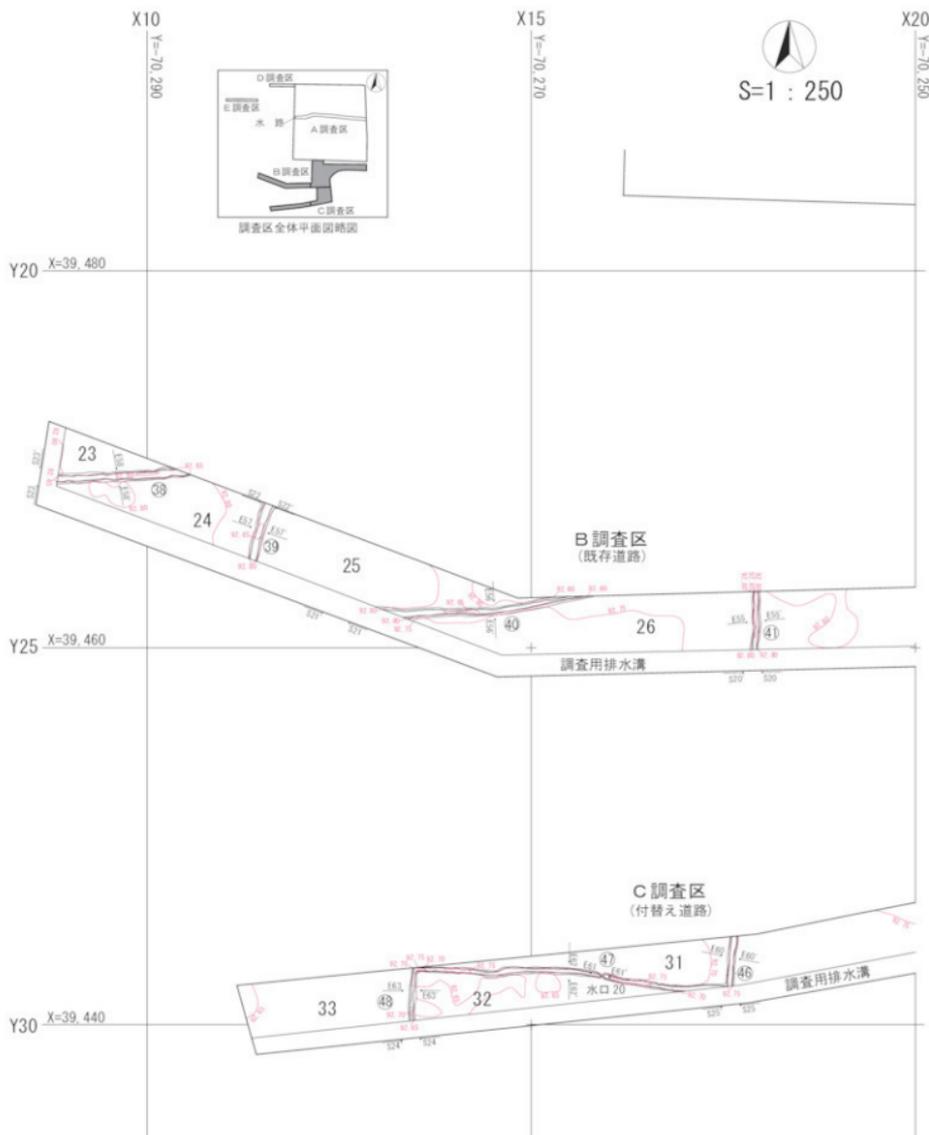




第5図 周辺遺跡条里地割り図 (109m 方格)



川曲阿弥陀西遺跡 No. 2 平面図 (B・C調査区)



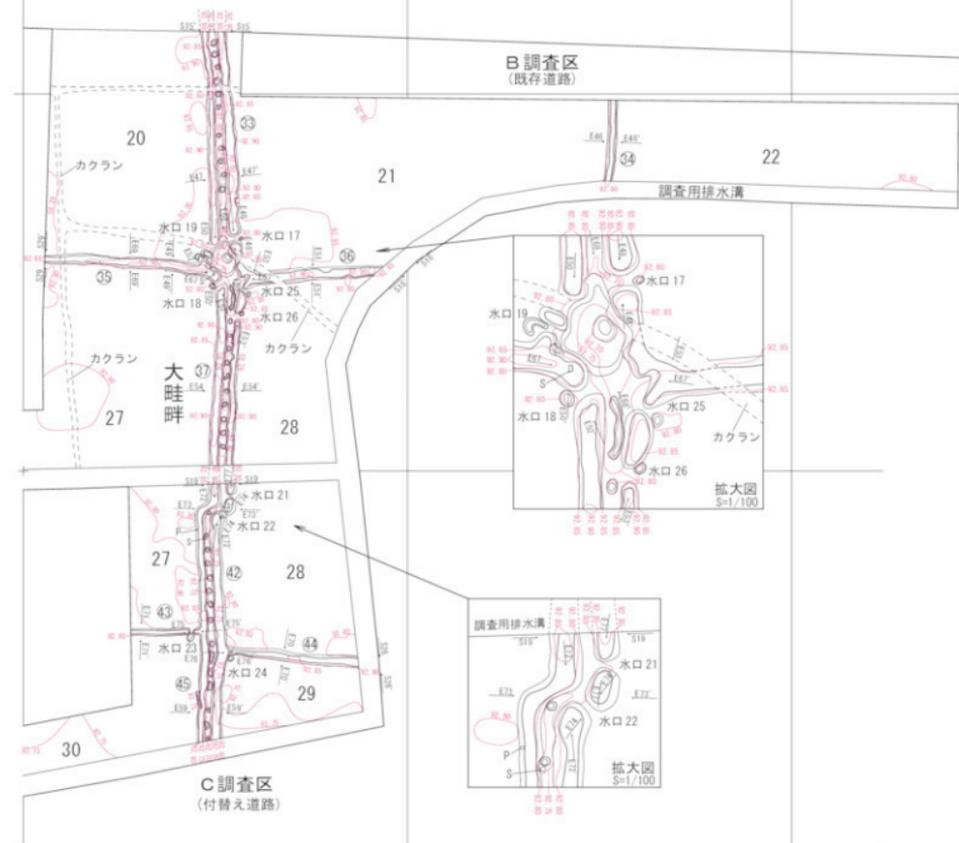
X20
Y=70,250

X25
Y=70,230

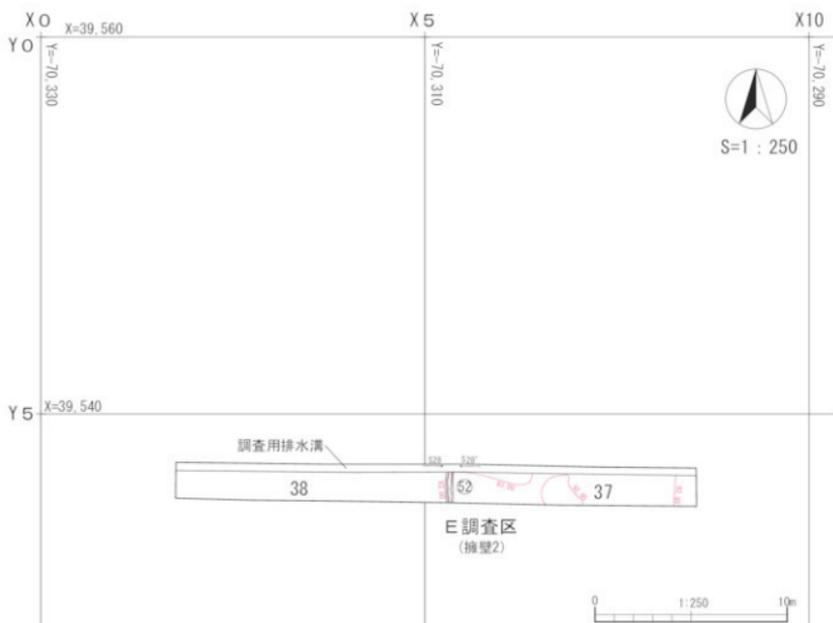
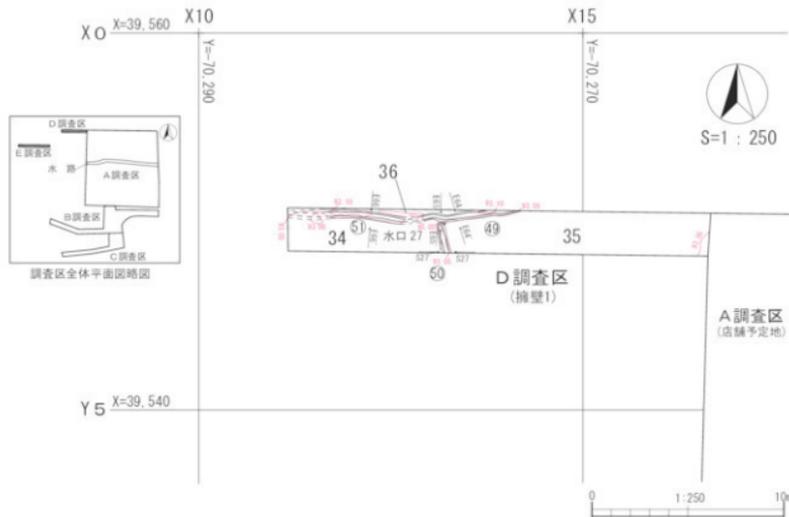
X30
Y=70,210

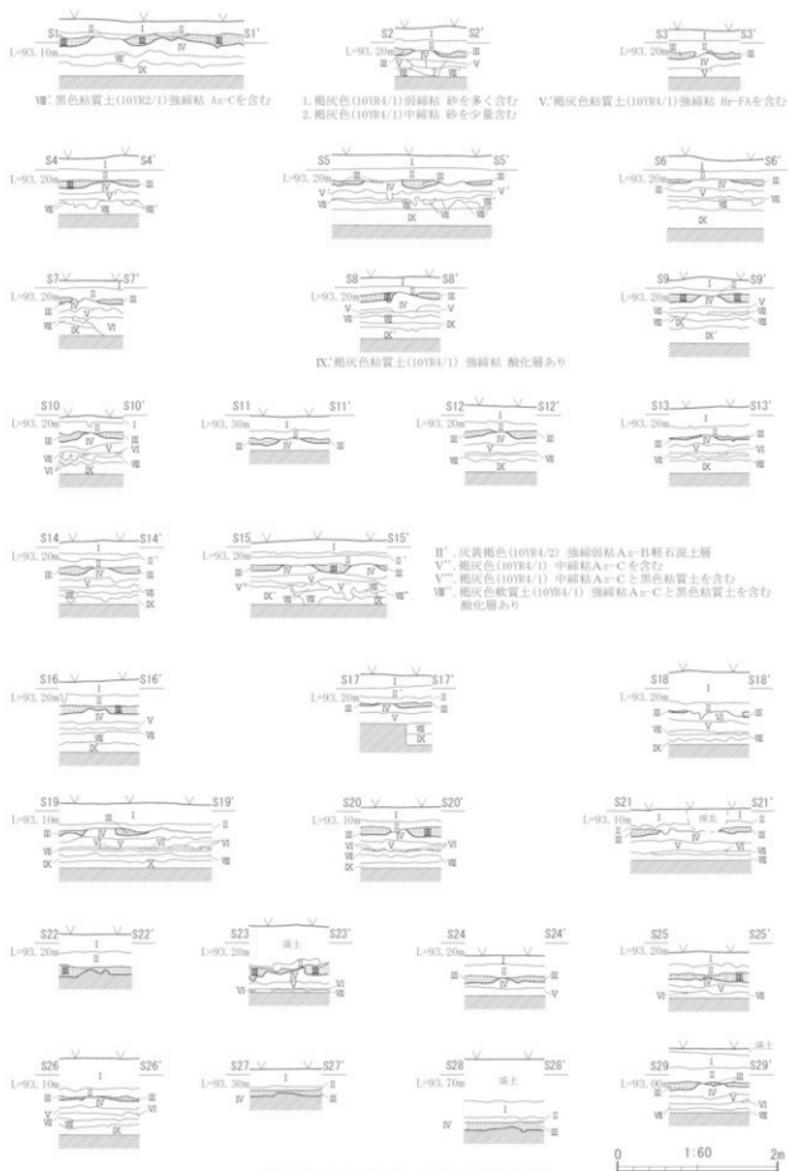
A 調査区
(店舗予定地)

B 調査区
(既存道路)

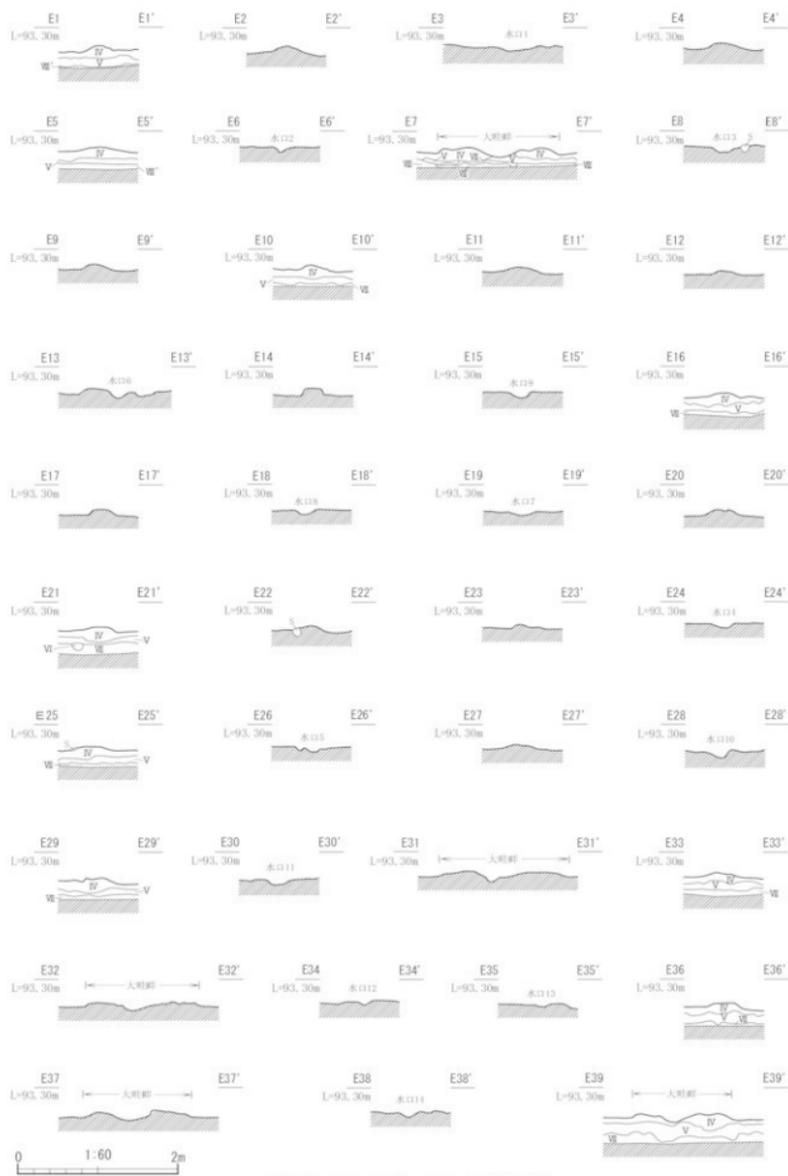


川曲阿弥陀西遺跡 No. 2 平面図 (D・E調査区)

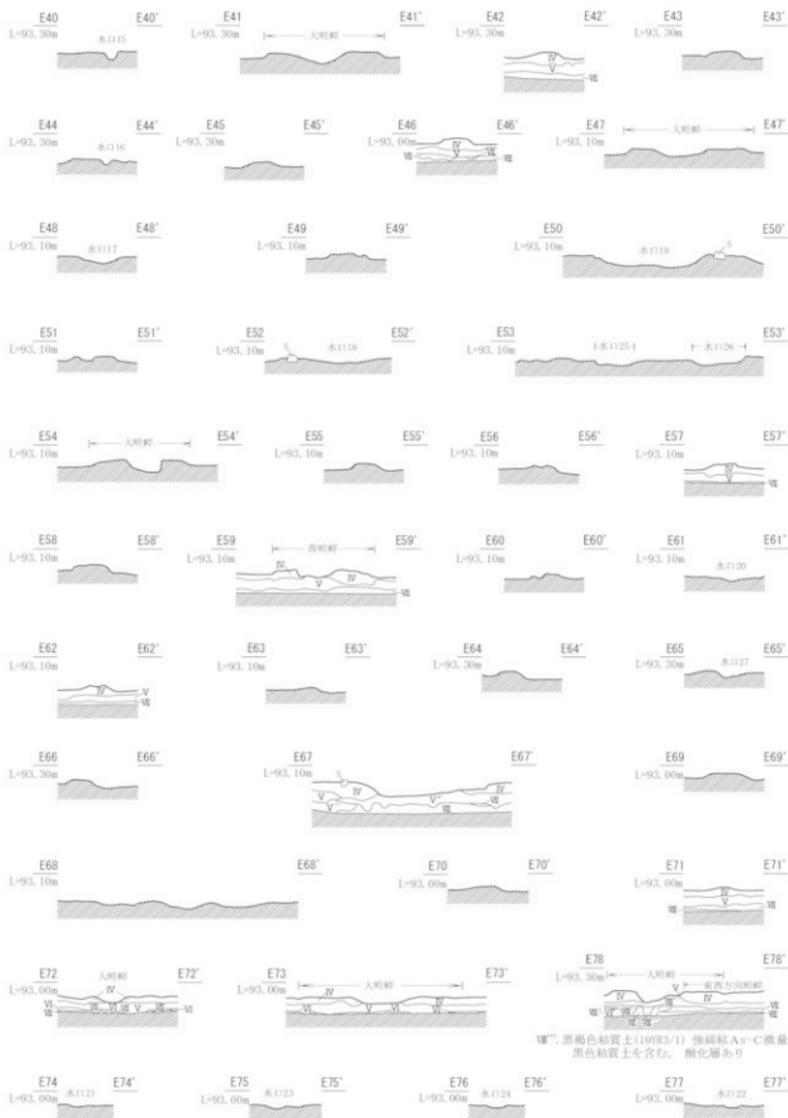




第9図 S1-S1'~S29-S29'断面図



第10图 E1-E1'~E39-E39' 断面图



“Ⅷ”：黒褐色粘質土(10YR3/1) 強粘結A₃-C 微量
 黒色粘質土を含む。 礫化層あり



第11図 E40-E40'~E78-E78' 断面図

VI ま と め

本遺跡の所在する前橋台地周辺は、大規模開発事業に伴い古代水田跡の発掘調査が盛んに行われてきた地域である。関越自動車道の建設に伴い行われた、日高遺跡(高崎市)をはじめとする調査では県内の古代水田跡研究を確立させた。特に一連の調査研究の進展によりAs-B軽石で埋没した水田跡は、条里制に基づく土地区画であり、律令制の下での土地制度であったと考えられている。

本遺跡に隣接する新前橋駅・川曲線において道路改良事業に伴う発掘調査が行われ、川曲島野遺跡で東西方向に走向する大畦畔を、川曲地蔵前Ⅱ遺跡では、南北方向に走向する大畦畔が検出された。さらに、川曲柳橋Ⅱ遺跡の調査終了後、A2区とA3区の間で道路工事の進捗に合わせて大畦畔の検証調査を行ったところ、東西方向に走向する大畦畔が確認された。これらの結果から109m間隔のメッシュを組み、それを坪境の条理推定線としたところ、本遺跡で検出された南北に走向する大畦畔と重なることが確認された(第5図)。また、東西方向の坪界線がB調査区の畦畔番号⑤・⑥付近にあたるが、幅や高さは他の畦畔と同じ様な数値であった。しかし、南北方向の大畦畔との接続部分で、大畦畔の中央が大きく掘られ水口が5ヶ所検出された。本遺跡内で確認された大畦畔では特異な形状を呈している。畦畔の幅は広くないが坪境としての役割があったのかと思われる。さらに、畦畔番号⑤・⑥を境に北側と南側で田面の勾配が変化している。具体的に北側は、A調査区の北端の標高93.05m、畦畔番号⑤・⑥の北側標高92.85m、標高差20cmで距離79mを測るため0.25%になる。すなわち、10m南へ行くと田面標高が2.5cm低くなり、20mで5.0cm低くなる計算である。同様に南側は、畦畔⑤・⑥の南側標高92.85m、C調査区の大畦畔南端付近で標高92.75m、標高差10cmで距離25mを測るため0.4%になる。10m南へ行くと田面標高が4.0cmほど低くなる。数値的に北側で0.25%、南側で0.4%が示すように、偶然なのか地形が変化する場合でもある。また、そこから南へ12m程のC調査区内の大畦畔では北から南に走向していたものが、西に曲がり、すぐに南方向に戻るクランク状をしている。A調査区の水口15付近から大畦畔がやや東方向へ曲がり始めており、緩やかに正規の位置へ戻さずに擦り付けた様相を呈している。どのような理由でこのような形状になったのか不明である。

坪内の地割については、高崎市教育委員会『日高遺跡(Ⅲ)1981』による分類では、大きく3形態に考えられ、半折型水田→不規則水田→長地型水田の変遷が示されている。本遺跡については南北に走行する大畦畔の東側では、A調査区北側の畦畔5は大畦畔との間隔が19.2mであるが、畦畔8以下の畦畔は22.5mほどの間隔でほぼ12間(21.8m)になっており半折型水田と考えられる。また、大畦畔の西側では横方向の間隔を6間(10.9m)が基準となり地割りしていると考えられ、長地型水田の様相が強いと思われる。

本遺跡周辺は開発途上であり、調査事例がもっと増えると思われ、今後の水田研究の進展が期待される。

参考文献

- | | | | | | |
|-----------|------|------------------|-----------|------|---------------|
| 日高遺跡(2) | 1980 | 高崎市教育委員会 | 川曲柳橋Ⅱ遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 地蔵前遺跡 | 1988 | 前橋市教育委員会 | 川曲柳橋Ⅲ遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 新保田中村前遺跡Ⅰ | 1990 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 川曲地蔵前Ⅱ遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 柳橋遺跡 | 1994 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 | 川曲毘沙門前Ⅱ遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 川曲毘沙門前遺跡 | 1998 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 | | | |
| 川曲島野遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 | | | |



川曲阿弥陀西遺跡No.2 全景



A調査区北側（西から）



A調査区北側大畦畔（北から）



A調査区南側（南西から）



A調査区南側大畦畔（南から）

図版 2



A調査区 No13水田足跡検出状況 (西から)



A調査区 No13水田足跡検出状況 (西から)



B調査区西端 (西から)



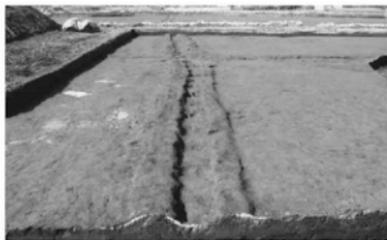
B調査区 No25水田付近 (西から)



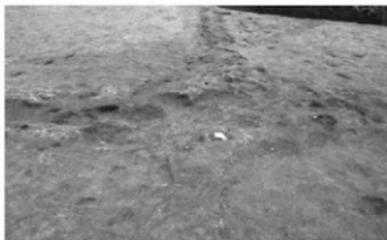
B調査区 No27水田付近 (南西から)



B調査区 No21水田付近 (西から)



B調査区大畦畔 (南から)



B調査区大畦畔と畦畔の交点 (西から)



B・C調査区大畦畔（北から）



C調査区大畦畔クランク部分（南から）



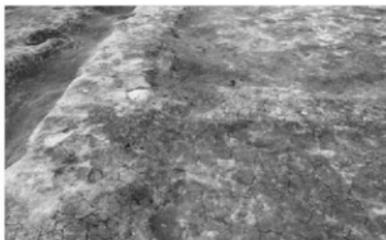
C調査区 No32水田付近（西から）



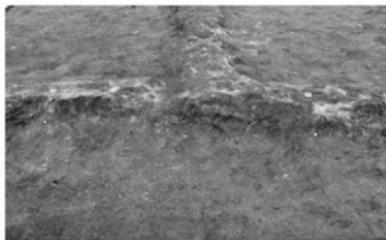
D調査区全景（西から）



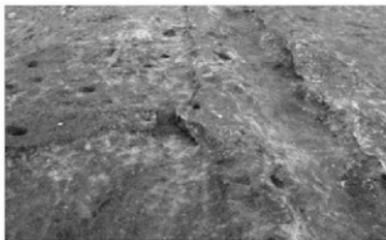
E調査区全景（西から）



A調査区北側 水口3（北から）



A調査区南側 水口8（西から）



A調査区南側 水口15（南から）

抄 録

フリガナ	カワマガリ アミダニシ イセキ ナンバーニ
書名	川曲阿弥陀西遺跡No.2
副書名	店舗新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田貫之(前橋市教育委員会) 権田友寿(スナガ環境測設株式会社)
編集機関	スナガ環境測設株式会社 〒371-0056 群馬県前橋市青柳町211-1
発行機関	前橋市教育委員会 文化財保護課 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2013年12月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
川曲阿弥陀西遺跡 No.2	群馬県前橋市川曲町 356-1-2,358-1・2,359- 2-4,361,501-1,502,503 -1,504-4,7,505-2,506,507, 508-1	10201	00820	36° 21'17"	139° 02'57"	20130807 ～ 20131227	5,329㎡	店舗新築工事
			略称 25A148					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川曲阿弥陀西遺跡No.2	生産跡	平安時代 近世以降	水田跡	土師・須恵器片 陶器片ほか	As-B 下水田跡

川曲阿弥陀西遺跡No.2

店舗新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年12月22日 印刷

2013年12月27日 発行

発行 前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531

編集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211-1

印刷 朝日印刷工業株式会社